

科目ナンバリング		G-LAS13 80012 LJ90							
授業科目名 <英訳>	レジリエントな社会づくりのイノベーション :展望・自由提言 Innovation for Resilient Healthy Society: Foresight and Proposal			担当者所属 職名・氏名	医学研究科 教授 今中 雄一				
群	大学院横断教育科目群		分野(分類)	健康・医療系		使用言語	日本語		
旧群		単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義(メディア授業科目)		
開講年度・ 開講期	2026・通年		曜時限	金5		配当学年	大学院生	対象学生	全学向
(医学研究科の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)									
[授業の概要・目的]									
<p>授業の概要</p> <p>人口減少・超高齢化と、風水害・地震などの自然災害や感染症、サイバー脅威、国際紛争といった多層のリスクが重なる中、COVID-19以後のデジタル化と価値観の変化は社会の設計思想を大きく揺り動かしている。</p> <p>本講義は、公衆衛生・医療、経済、情報(データ/AI/サイバー)、心理・行動、社会・コミュニティ、環境、都市・まちづくり、行政・法制度、思想・倫理を横断して、レジリエントな社会づくりに資するイノベーションの潮流を俯瞰し、能登半島地震や南海トラフ巨大地震リスク等の国内課題、ならびにサプライチェーン不安定化などのグローバルな外生ショックを素材に、リスクと機会の双方を描き出す。</p> <p>あわせて、レジリエンス(予防・吸収・適応・変革)の概念を基盤に、エビデンス(統計・研究・政策文書)と実務知を統合し、倫理・人権・インクルージョン(GESI)への配慮を組み込んだ実装可能な政策・事業案を構想・評価・発信する力を養う。具体的には、脆弱性評価と影響分析、目的・手段・資源・リスクを整合させた介入デザイン、官民・地域・医療・NPO等の協働(PPPを含む)と合意形成、ロジックモデルやKPIによる評価枠組みと適応的マネジメントを実践的に身につける。</p> <p>最終的に受講者は、ポストコロナ時代のより充実した社会の実現に向け、説得力ある提案を行い、自由闊達な議論を通じてレジリエンス向上の実装可能な道筋を提示することを目指す。</p> <p>【コ・オーガナイザー】近藤 尚己(医学研究科社会健康医学系専攻 社会疫学 教授)、長尾 美紀(医学研究科医学専攻 臨床病態検査学 教授)、西浦博(医学研究科社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授)、今中雄一(医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授、オーガナイザー)</p>									
[到達目標]									
<ul style="list-style-type: none"> 健康や生活への脅威に強いレジリエントな社会づくりと、関連するイノベーションについて、多側面から包括的に具体的に考えることができるようになる。 									
[授業計画と内容]									
<ul style="list-style-type: none"> 第1回 6月19日「ポストコロナのレジリエントな保健医療・社会システム」 講師：今中 雄一(医学研究科社会健康医学系専攻 医療経済学 教授) コロナ禍が医療システムにもたらした需給・質・アクセス・財政への影響を整理し、国内外の知見を踏まえて、感染制御と社会経済活動の両立を図る包括的施策フレームワークの構築を試みる。また、健康・医療・介護を横断したレジリエントなシステムの要件(統治、提供体制、財政、資源・人材、地域協働)を示し、評価指標と適応的マネジメントに基づく「現状とこれから」の実装戦略を描く。 第2回 6月26日「ポストコロナの地球循環型社会～京都の里山より～」 レジリエントな社会づくりのイノベーション:展望・自由提言(2)へ続く 									

講師：浅利 美鈴（総合地球環境学研究所 教授）

資源循環（3R + Renewable）を軸に、温室効果ガス排出の産業・部門別構成を読み解き、循環経済が削減に寄与し得る余地を定量的に把握する。

・第3回 7月3日「脱炭素時代のDXと経済」

講師：諸富 徹（経済学研究科 教授）

非物質化（無形資産）×脱炭素×DXを軸に、産業の価値創造メカニズムと炭素生産性の関係を読み解き、R&D・データ/ソフト・ブランド・組織能力・人材への投資やカーボンプライシング等の政策手段の相互作用を検討しつつ、サービス化・ビジネスモデル転換・需要側イノベーションを通じて成長と環境を両立させる経済デザインを読み解く。

・第4回 7月10日「文化心理学から見た幸福と健康」

講師：内田 由紀子（人と社会の未来研究院 社会心理学・文化心理学 教授）

個の幸福から「場」のウェルビーイングへ視点を拡張し、個人のウェルビーイングと場のウェルビーイングが循環し共創的にはたらく社会を目指す。

・第5回 7月17日「新型コロナウイルス感染症の疫学と見通しの科学」

講師：西浦 博（医学研究科 社会健康医学系専攻 環境衛生学 教授）

社会活動への制限を最小化する対策設計、死亡発生の機序把握、死亡インパクトの定量化を柱に、数理疫学と実データでCOVID-19の制御戦略を学ぶ。

・第6回 10月2日「放射線リスク研究の立場から考えるレジリエンス社会」

講師：角山 雄一（環境安全保健機構放射線管理部門 准教授）

放射線の基礎（放射性同位体・半減期・線量）から、長期低線量被ばくの知見と政策枠組みを横断的に扱う。

・第7回 10月9日「ポストコロナの医療DX」

講師：黒田 知宏（医学部付属病院 医療情報学 教授）

京大病院のコロナ対応を起点に、既設ICTで来院抑制・オンライン診療・機器の遠隔運用を即応実装し、SaMDとIEC80001に基づく病院主導ガバナンスを踏まえて、ePRO / eConsent・検査通知・薬局連携をつなぐイベント駆動型サービスと“さりげない電子カルテ”でポストコロナの医療DXを描く。

・第8回 10月16日「持続可能な社会保障に向けた現状と課題～医療と介護を中心に～」

講師：中対 剛（経済研究所 特定准教授）

超少子高齢化による医療・介護需要の増大と財政制約を前提に、社会保障の持続可能性を制度設計・財政・現場運用の三層で検討する。

・第9回 10月23日「アカデミアと地方自治体で取り組む感染症対策」

講師：長尾 美紀（医学部付属病院 感染制御部 教授）

アカデミア×自治体連携を土台に、全自動PCRによる大規模検査体制とゲノムサーベイランス、保健所データ基盤を整備し、地域実装へつなげる。

・第10回 10月30日「自然災害にレジリエントに備える」

講師：牧 紀男（社会防災研究部門 教授）

自然災害下の医療機関のリスクを整理し、BCP/BCMなど災害対応の仕組みや課題を学ぶ。

・第11回 11月6日「prePrint時代における機械学習・AIの活用と意思決定」

講師：鹿島 久嗣（情報学研究科 知能情報学専攻 教授）

第三次AIブームを支える機械学習を、実データに対する予測精度を核とする方法論として整理し、深層学習×ビッグデータによる性能向上と大規模言語モデルの位置づけ、ベンチマークデータ/コンペティションの役割、そして説明性・公平性・AI倫理の課題までを横断する。

・第12回 11月13日「パンデミックの倫理」

講師：児玉 聡（文学研究科倫理学研究室 准教授）

有事の倫理を、ICUトリアージや事前計画の可否、誰が・どの原則で決めるか、公開議論の範囲、平時倫理との距離という論点から体系的に検討する。

・第13回 11月20日「社会疫学のエビデンスから考えるレジリエントな社会づくり」

講師：近藤 尚己（医学研究科 社会健康医学系専攻 社会疫学 教授）

住民主体・地域単位で進める全世代型の地域包括ケアを土台に、デジタル包摂とオンラインアクセスを整え、個人・組織のソーシャルキャピタルを育む。医療・福祉・まちづくりを社会的処方で接続し、健康の上流要因に働きかけつつ、新たな危機に備えるレジリエンスを設計し、格差の少ない社会を住民とともに共創する。

・第14回 11月27日「行動経済学と感染予防行動」

講師：依田 高典（経済学部・経済学研究科 教授）

行動経済学のバイアス（現在性・確実性・現状維持）が禁煙や高額治療の受容をどう歪めるかを解剖し、ナッジ×インセンティブ/層別説明で選択環境を最適化して治療の受容と継続を高める。

・第15回 12月4日「まとめ：健康・生活への脅威に強い社会づくりについて」

講師：複数教員

レジリエントな社会づくりのあり方について、自分で考え自由な発想で、提案する。

講義の順番等が変更される可能性があります。初回に予定を説明します。

[履修要件]

- ・80%以上の出席を必須とします。
- ・積極的な議論への参加を重視します。

[成績評価の方法・観点]

講義・討論・グループワーク・発表等におけるコミットメント（配分50%）、レポート（配分50%）により、総合的に評価する。【素点(100点満点)評価】

[教科書]

使用しない
各講義で資料を配布する。

[参考書等]

- （参考書）
- （参考書）
- 『今中雄一編・認知症にやさしい健康まちづくりガイドブック：地域共生社会に向けた15の視点（共著）』（学芸出版社；2023）

レジリエントな社会づくりのイノベーション:展望・自由提言(4)

『病院の教科書第2版』（医学書院）講義で紹介する

【授業外学修（予習・復習）等】

予習、復習にとどまらず、自律的学習が望まれる。
参考書の該当部分やLMSにアップされた資料を読み、 関心のもてる事項は各自理解を深めること（予習・復習とも）。

【その他（オフィスアワー等）】

京都大学の大学院生であれば専門領域を問わず受講可
問い合わせ等は、
CHS事務局 chs-office@umin.ac.jp へ連絡してください。
面談等希望者は、適宜、教員にアポイントメントをとってください。
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

【主要授業科目（学部・学科名）】